

HOSPITALE ギャラリープログラム 2017

狩野哲郎

既知の地、未知の道

HOSPITALE

Gallery Program 2017

Tetsuro Kano Solo Exhibition
Known Heimat, Unknown Routes

July 29 – September 11, 2017

Venue: Former Yokota Hospital

403 Sakaemachi, Tottori

Japan

Hours: Friday–Monday 1pm–6pm

Opening Reception : July 29, 4pm–

Opening-Day Artist Talk : July 29, 5pm–

Admission Free

<http://hospitale-tottori.org/>



HOSPITALE
PROJECT

ホスピタル・プロジェクト



Tetsuro Kano

Known Heimat, Unknown Routes

狩野哲郎

既知の地、未知の道

2017年7月29日(土)ー9月11日(日) 火、水、木は休館

開館時間：13:00-18:00

会場：旧横田医院(鳥取市栄町403) 入場無料

オープニング・レセプション：7月29日(土) 16:00-17:00よりアーティストによるギャラリートークを実施します。

HOSPITALEでは、レジデンス・プログラムの8回目のアーティストとして、狩野哲郎を招聘し、約三週間の滞在の成果として展覧会「既知の地、未知の道」を開催いたします。

近年狩野は、人間の生活に身近でありながら別の体系を生きる存在としての「鳥」の視点を取り入れたインスタレーションを制作してきました。日用品や自然物といった身の回りのものを組み合わせ、配置されたオブジェたちは、「鳥」という他者の知覚に開かれることによって、彫刻や絵画といった既存の美術作品の別のありようとその可能性を提示しています。

今回、鳥取では、その地名の由来とも言われる「鳥取部(ととりべ・とりとりべ)」の伝説を起点に、その歴史の変遷やこの土地に棲息する鳥の生態について、フィールドワークやインタビューを重ねました。こうした独自のリサーチを元に構想された新作は、説話の鍵を握る渡り鳥が通っていた道、見ていた土地の姿を想像することを通じて、現代を生きる我々、それを取り巻く環境・社会に新たな光を当てることを試みるものです。本展が、光の角度によってかたちを変える予兆に満ちた地図/作品を手がかりに、未だ知ることのない世界の認識へと辿り着く旅となることを期待しています。

狩野哲郎 | Tetsuro Kano

1980年生まれ。2007年東京造形大学大学院修了。2011年狩猟免許(わな・網猟)取得。レジデンスや滞在制作を中心に作品を制作。主な個展に「自然の設計」(2011、ブルームバーグ・パヴェリオン・プロジェクト、東京都現代美術館)、「Nature / Ideals」(2015、SHISEIDO GALLERY、東京)。「a tree as a city」(2017、YUKA TSURUNO GALLERY、東京)。グループ展に「庭をめぐれば」(2012、ワンジ彫刻庭園美術館、静岡)、「想像しなおし」(2014、福岡市美術館)、「芸術植物園」(2015、愛知県美術館)など。

主催：ホスピタイル・プロジェクト実行委員会
(鳥取市湖山南4-101 鳥取大学地域学部野田研究室内)

企画・コーディネート：赤井あずみ(キュレーター/ホスピタイル・プロジェクト、鳥取県立博物館主任学芸員)、鳥取大学、蛇谷りえ(うかぶLLC)

協力：てまひま、鳥取県立博物館、YUKA TSURUNO GALLERY

問合せ：ホスピタイル事務局(鳥取市瓦町527 ことめや内)
tel.090-9546-9894
hospitale.project@gmail.com
http://hospitale-tottori.org/

アクセス | Access

JR鳥取駅北口から徒歩5分
若桜街道を県庁方面へ進み、
「すべすこモド」の角を左折すく



※ 駐車場はございませんので、
近隣パーキングをご利用ください。

鶺鴒(クダム、ハクチョウ)の渡り、避暑のための北帰行

鳥捕る人、鳥取部/鳥飼部の伝承を起点に鳥追うこととなる。鳥取と鳥根と因幡と伯耆と出雲。山と川、古海、池と湖、砂丘と海岸。鳥取部は水門に綱を張って鶺鴒を捕らえたが、その綱は霞か水門は閉じられていたか、知ることはできない。鳥獣保護区等位置図は、私たちがこの場所を現状どう認識すべきか示された地図のひとつだ。鳥獣たちの地図もいつも更新されている。古代、白鳥は紀伊から因幡、越まで飛んだ。現代、冬告げ鳥は米子からウラジオストク、シベリアを飛ぶ。渡り鳥が世界一周するのも遠い話ではないかもしれない。

故郷を知る留鳥のカラスは家の周囲をぐるっとまわって、それから引き返していく。そしてその飛び出した位置に戻るためには、よく知った往路を引き返してゆくが、引き返さないで、反対の方向から戻ってきた場合には、その出発点を見つけることができない。いつも周知の道を好む。故郷を知る渡り鳥のハクチョウは大陸に生まれついて見える道がついている。このことはおそらく、親に伴われずに旅をする若鳥にはあてはまるが、経験と好奇心があれば、お気に入りのあたらしい周知の道を獲得する可能性がないわけではない。